

第23回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 ソロアーティスト部門

●審査員 A

ソロアーティスト部門は、ワルシャワで開催される本家のショパンコンクール、または単純に大きなコンサートホールへの登竜門とでもいえるでしょう。いずれもハイレベルで、ピアニストとしての高い能力だけでなく、オリジナリティも要求されます。このようなレベルにおいては、自分の演奏を唯一無二のものにするために何ができるか常に自問自答し続ける必要があります。いずれにせよ、本日の皆さんの演奏を聴き、全体的にととてもよく準備されていることを嬉しく感じました。

●審査員 B

動画と違い弾き直しが出来ない為、緊張し過ぎている方が多く見受けられた。生で聞くと音が届いているか否か、表現力の豊かさで差がついたと思う。細部にわたって楽譜を深く読み、その曲にあった音色を考えて表現をして頂きたい。

●審査員 C

- ・楽器を自分自身の体と捉え音を鳴らす際、自分の言葉で語るよう指先のコントロールから様々な表現を繰り広げて行ってほしい。
- ・音価による表情をもっと意識して全体の構成を考えていくことを望む。
- ・ハーモニーの中でメロディーを際立たせていく中でより美しく響くバランスをよく聴きながらコントロールしていく。
- ・音を鳴らしていく上で自分の音を聴くことは勿論であるが指先と鍵盤の関係や脱力された腕から鳴らす豊かな響きを耳だけではなく体をどのように使うかという計算も必要。ダイナミクスの幅をつくるうえでもこのことは大切なことでしょう。
- ・自分で練習している時とホールでは残響も変わってくるので、バランスやペダルの使い方もホールの響きをよく聴いて客席へと語りかける意識をもって表現して行って下さい。

●審査員 D

- ・Legato を（ペダルなしでも）指でできるようにさらって下さい。ショパンの音楽には legato が必須ですので丁寧に心をかけて表現につなげましょう。
- ・ひとつひとつの音を魂をもって打鍵できるようにしたいですね。ことばのごとく、音が語りたいたいです。速いパッセージであっても同じです。
- ・和声の色あいの変化、役割を理解して、きちんとその和声の意味を弾きたいです。音は合っていても音楽が間違っているケースが多くありました。ショパンの音楽は「音による思想の表現」です。特に後期の作品と向き合うときには、「音を弾く」その先に「何を表現するか」を求め、探し、演奏表現につなげていきましょう。

●審査員 E

- ・どの方も作品に対する考えを表現される意欲がある演奏でした。
- ・プログラムの工夫をされるとこの先に広がるものがあると思いました。

●審査員 F

私の聴いた限りでは、今回は最もレベルが高く、満足感を味わうことができました。皆さんそれぞれとても上手く弾けているのですが、あともう一步の精度と厳密さが得られれば、本当に一流だと思います。そのようなために引き続き努力を重ねてほしいと願っております。